

医師部門 受賞者

堀部 敬三

独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター 上席研究員

多施設共同研究体制を先導し、 小児白血病の治療成績向上に寄与



堀部 敬三

Keizo Horibe

独立行政法人国立病院機構
名古屋医療センター
上席研究員

1978年、名古屋大学医学部卒業。公立陶生病院にて研修。1979年、名古屋大学小児科入局。同大学附属病院にて研修。1986年、名古屋大学大学院医学研究科修了(医学博士)。1986年、名古屋第一赤十字病院小児科医員。1988年、名古屋大学医学部小児科助手、講師(1992年)、助教授(1998年)。2001年国立名古屋病院小児科医長。2004年、同臨床研究センター長(独立行政法人国立病院機構名古屋医療センターに改組)。2019年、同センター小児科(上席研究員)。2020年、三重大学大学院医学系研究科客員教授(個別化がん免疫治療学)。専門は小児血液腫瘍学、がん医療政策。AYA世代(15~39歳)のがん患者への支援にも尽力。

推薦者 | 長谷川 好規 独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター 院長
堀田 知光 国立研究開発法人国立がん研究センター 名誉総長
独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター 名誉院長

欧米に伍する多施設共同研究を構築

堀部氏が医師になった1970年代。白血病は不治の病として恐れられていた。1970年代後半から名古屋大学(第一内科)では骨髄移植が取り組まれていた。しかし行えども成功しない。当時、国内の小児白血病の5年生存率は2割程度。堀部氏は子どもが好きということもあり、昼間は小児科で臨床をし、夜は大学院(第一内科)で生涯のテーマとなる白血病の研究をスタートする。海外では、化学療法のみで4割は助かるという報告があり、明るい光も見え始めていた。1980年頃の米国では、化学療法^{*1}で寛解^{*2}に持ち込み、病気の状態が良いときに骨髄移植を行うことで、7~8割の患者さんが助かるというデータもあった。堀部氏は、日本でも骨髄移植を成功させたいと、1982年に米国スローン・ケタリングがんセンターに留学。骨髄移植の基礎研究に没頭する。

小児白血病の治療法は、主に欧米の研究グループにより開発されてきた。日本でも1970年代から主に地域や学閥単位のグループで、独自の臨床研究が行われた。しかしグループが違くと、化学療法のみで治癒が見込める人と骨髄移植が必要な人など、基準がまちまちで異なっていた。小児白血病は患者数が年間1000例未満と少ない上に、各グループでバラバラに取り組ん



国内では年間20人しか発症しない病気もあるため、国際共同研究が不可欠だと1999年には国際BFM研究グループ会議に日本人として初めて1人で乗り込んだ(写真は2007年の国際BFM研究グループ会議のもの)。

では、患者さんにとってもわかりにくい。「欧米と対等に治療研究を進めるため、全国統一でやらないか」と、大義を掲げて各地の医師が一同に介する場で声をかけた。1996年に小児白血病研究会、2003年には日本小児白

血病リンパ腫研究グループの設立を主導。全国規模での多施設共同研究における基盤整備を牽引し、エビデンスに基づいた標準治療の確立に貢献する。考えの異なる各地域をまとめるのは困難を極めたが、各疾患の治療開発におけるスペシャリティを磨くため役割分担を明確化し、全議事録を公開して、透明性を担保することで信頼を得ていった。そして多施設共同臨床研究の適切なデータ管理に不可欠な、独立したデータセンターを構築。さらに中央診断体制など、欧米に匹敵する多施設共同臨床試験体制を整備し、50を超える臨床試験が実施された。

AYA 世代特有の困難さを支援する

思春期から若年成人の15~39歳を「AYA^{アヤ}*3世代」と呼ぶが、この世代の新たながん発生数は年間約2万人で、全体^{*4}の中の2%^{*5}に過ぎない。この年代は、進学や就職、結婚、出産などライフイベントが集中する時期で、がんを発症すると様々な困難に直面する。堀部氏は2018年に、『AYA がんの医療と支援のあり方研究会』(AYA研)を立ち上げる。「同世代の患者が少なく孤立しやすい。彼らが抱える不安や悩みを解決しないと、病気や治療と向き合うことは難しい」と堀部氏。AYAがんサポート研修を開催するなど、多職種による支援体制の構築を進める。

現在、小児白血病では80%以上^{*6}の長期生存が可能になるなど、飛躍的に治療技術は進歩している。今後は患者さんから何が必要とされているかという視点を重視し、研究を組み立てたいと話す。大好きな子ども達の未来のために、その歩みを止めることはない。



AYA世代のがん患者の治療や支援にあたる医療者向けに、がんの特性や望ましい対応方法などをまとめた。

*1 化学物質を使って、がん細胞の増殖を抑えたり、破壊したりする治療法。*2 がん(腫瘍)が縮小または消失している状態のこと。*3 Adolescent and Young Adult の略で、思春期・若年成人のこと。*4 その年に新たにがんと診断された全世代(全体)の総数のうちのこと。*5 国立がん研究センター中央病院 AYA世代(思春期・若年成人)と希少がん。*6 国立がん研究センター中央病院 小児の血液・リンパのがん。